

## 座間中での避難所開設訓練行われる

座間中を避難所としている10自治会が連携して避難所を開設する第1回目の訓練が11月12日に行われました。

相武台自治会では、座間中を避難所として利用する地区を緑ヶ丘および相武台北側地区と想定しており、当日は19名が参加、普段見る事ができない防災施設見学・機材の取り扱い訓練および炊き込み講習の体験後、炊き立てごはんが配付され、有意義な半日間の避難訓練が終了しました。



非常用飲料水汲み上げ体験

## 座間市自主防災組織リーダー研修に参加

11月14日 厚木市防災学校にて、市自連主催による自主防災組織リーダー研修会が行われ、相武台自治会からは加藤副会長が参加しました。

過去の様々な自然大災害やテロ発生時における教訓から、避難所でどのようなことが起きるかを学び、その後、防災体験実習として災害現場における傷病者の搬出・搬送および消火訓練、地震・風水災害の実体験を受けました。また、避難所設営訓練では避難所運営ゲーム方式による、限られたスペースの中で避難者の抱える様々な事情に配慮して振り分けを決める基本を学びとることができました。



倒壊家屋からの救出

### わが町 相武台を綴る -座間市制三十年を記念して-

(これは22区Aにお住いの片野晴雄さんが平成13年に著した冊子から抜粋したものを、ご厚意により掲載させていただきます。今後、連載として不定期ではありますが掲載してゆきます。)

#### はじめに

昭和二十年(1945年)、この年は戦前・戦後を分ける終戦の年でありました。平成十三年、西暦では2001年、本年は二十一世紀を迎えて、早くもあの年から五十六年を経過することになります。戦前の座間は、昭和二年に小田急線が開通したことと昭和十二年には東京から陸軍士官学校移転があって、この二つのことが『座間』発展の原点になるとともに、近隣地域を含んで『軍都さがみはら』が形成されるに至りました。そして、中っ原(相武台)は座間の表玄関でした。

ここに、母千代の残した一文があります。原文は、ひらがなのみの文で新聞の広告紙に書き綴った長さ三メートルにも及ぶもので、それに姉ミヨ子が『人力車』と題名・加筆したものです。母千代にとっては「自分史」でもあり、わが片野家にとっては昭和の歩みを記した記録といえるものとなりました。

ここ数年、片野家の私たち兄弟は、機会を見て「兄弟会」を催しています。寄る年波に戦時中の苦労話や戦争体験、特に練兵場における毒ガス演習による苦しかった体験や高射砲陣地のことなどはこの中っ原部落(現相武台)に生きた人のみの戦争体験といえるもので、書き残してみてもどうかと話題になりました。わが片野家は、ずっと座間中宿に住んでいましたが、大正末期に火災に遭ったことから、この地にいち早く移り住んだ訳です。

戦後まもなくの座間は、陸軍士官学校が在日米軍キャンプとなり近隣の多くの軍都の施設も米軍駐留施設となって「基地の街」化しましたが、三十年代後半には、首都圏におけるベットタウンとしてその役割を果たすようになりました。四十年代における日産自動車工場の誘致は一時的でしたが座間の大きな発展・隆盛をみて、町村から市制へとその変容を見ました。しかし、日産自動車座間工場の閉鎖した現在では、首都圏におけるベットタウンのみの役割をもつ「ヘソのない都市」に変貌しているといえます。

本年、座間市は市制三十周年を迎えています。二十一世紀の座間の発展は、一途に「都市としてのヘソづくり」に因をもとめることにあると言える気がいたします。